

学会発表

国際学会

1. Masutaka Furue, Regulatory mechanism of filaggrin expression related to atopic dermatitis, Entretiens d'Avène 「Atopic dermatitis: From the Lab to the patient」、2017年12月1日、上海
2. Uchi H, Morino-Koga S, Furue M. 6-formylindolo[3,2-b]carbazole (FICZ) accelerates skin wound healing via activation of ERK, but not aryl hydrocarbon receptor. 47th Annual ESDR Meeting 2017. Aug 27-30/2017. Salzburg, Austria
3. Uchi H, Kiyomatsu-Oda M, Furue M. The tryptophan photoproduct FICZ improves atopic dermatitis by enhancement of filaggrin production. 47th Annual ESDR Meeting 2017 Aug 27-30/2017. Salzburg, Austria
4. Makiko KIDO-NAKAHARA, Yumi. YASUKOCHI, Takeshi NAKAHARA, Rie KUROKI, Tetsuya KOGA, Toshihiko MASHINO, Yuichi KURIHARA, Masutaka FURUE Clinical bandings of Patient-Oriented Eczema Measure (POEM) scores among Japanese atopic dermatitis patients 9th World congress of Itch 2017 2017/15-17. Porland
5. Gaku Tsuji. The roles of autophagy in human keratinocytes. 42nd Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 2017, 12/15-17, Kouchi, Japan
6. Gaku Tsuji, Akiko Hachiya, Oda Mari, Masaki Takemura, Xianghong Yan, Takeshi Nakahara, Hiroshi Uchi and Masutaka Furue. AHR activation restores FLG expression via OVOL1 in atopic dermatitis. 47TH ANNUAL ESDR MEETING. 2017/9/27-30, ROTTERDAM, Salzburg, Austria
7. Gaku Tsuji, Akiko Hachiya, Masamitsu Ichihashi, Masutaka Furue. Palladium and platinum nanoparticles activate AHR and NRF2 in keratinocytes—implications for vitiligo therapy. 76TH Annual Meeting Society of Investigative Dermatology 2017, 2017/4/26-29, Portland, Oregon, USA
8. Ito T, Tsuji G, Ohno F, Nakahara T, Uchi H, Furue M. Potential role of the OVOL1-OVOL2 axis and c-Myc in the progression of cutaneous squamous cell carcinoma. The 76th Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology. 2017/4/26-29. Portland, Oregon, USA
9. Mitamura Y, Nunomura S, Tsuji G, Nakahara T, Furue M, Izuhara K. The IL-13/periostin/IL-24 pathway causes epidermal barrier dysfunction in allergic skin inflammation. The 42nd Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. 2017/12/18-20. Kochi, Kochi, Japan
10. Mika Murai, Gaku Tsuji, Chikage Mitoma, Akiko Hashimoto-Hachiya, Makiko Kido-Nakahara, Takeshi Nakahara, Hiroshi Uchi and Masutaka Furue. Australasian Society for Dermatology Research (ASDR) 2017/5/9-10 Sydney, Australia

11. Mika Murai, Kazuhiko Yamamura, GakuTsuji,Chikage Mitoma and Masutaka Furue.
Potential therapeutic role of tryptophan photo-product FICZ in scleroderma by
upregulating FICZ/AHR/MMP1 pathway .The 42st Annual Meeting of the Japanese
Society for Investigative Dermatology. 2017/12/15-17. Kochi, Japan
12. Ohno F. Chronic inflammation promotes melanoma progression - emerging role of periostin.
Society for Investigative Dermatology Apr 26, 2017
13. Ohno F. Potential role of periostin in inflammation-associated melanoma progression in human
and mouse. European Society of Dermatology Research Sep 27, 2017

国内学会

1. 古江増隆、IL-31とアトピー性皮膚炎、第45回日本臨床免疫学会、ワークショップ「新たなターゲット分子に対する生物学的製剤の開発」、2017年9月29日、東京
2. 竹内聡. アトピー性皮膚炎 小児～成人における予防・治療戦略 第 47 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚癌学会総会学術大会 2017 年 12 月 9 日(土)かごしま県民交流センター 3 階 E会場(鹿児島市)
3. Takeuchi S, Furusyo N, Ono J, Takemura M, Esaki H, Yamamura K, Mitamura Y, Tsuji G, Oda M, Azuma Y, Hayashi J, Izuhara K, Furue M. Squamous cell carcinoma antigen (SCCA)-2 is a potent biomarker for infantile atopic dermatitis in Ishigaki Cohort. 第 66 回日本アレルギー学会学術大会 English session 6 2017 年 6 月 11 日 東京国際フォーラム ガラス棟 5F G502 第 9 会場(東京)
4. 竹内聡、古庄憲浩、小野純也、竹村正規、江崎仁一、三田村康貴、東義則、林純、出原賢治、古江増隆. 癌抗原 SCCA-2 は小児アトピー性皮膚炎の優れたバイオマーカーである. 第 116 回日本皮膚科学会総会 2017 年 6 月 4 日 仙台国際センター 3F 第 12 会場 (仙台市)
5. 竹内聡. アトピー性皮膚炎の治療と抗ヒスタミン薬の位置づけ. 第 331 回日本皮膚科学会長崎地方会スポンサードセミナー 2017 年 4 月 9 日 長崎大学医学部 第 1 講義室(坂本キャンパス基礎棟1階)(長崎市)
6. 内 博史. 分子標的治療薬のこれから. 日本皮膚科学会第220回熊本地方会 2017/3/4
7. 内 博史, 和田尚子, 古江増隆. 友人2人の悪性黒色腫を発見した悪性黒色腫の1例. 第32 回日本皮膚外科学会総会. 2017/7/23,埼玉
8. 内 博史, 和田尚子, 古江増隆. 悪性黒色腫に対する新規治療薬の使用経験. 第15回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2017/7/29,神戸
9. 内 博史, 藤澤康弘, 吉野公二, 大塚篤司, 船越 建, 藤村 卓, 松下茂人, 山本有紀, 秦 洋郎. ニボルマブ抵抗性悪性黒色腫に対するイピリムマブの効果. 第55回癌治療学会学術集会. 2017/10/22,横浜
10. 西江温子, 杉山晃子, 岡本友樹. 小児に生じた、反応性穿孔性膠原線維症の 1 例. 第 68 回

日本皮膚科学会中部支部学術大会 2017/10/7-8, 京都市

11. 小西さわ子 大塚晶子 安河内由美 江崎仁一 三苦千景 中原真希子 中原剛士 古江増隆. 生物学的製剤により血小板減少を生じたと考えられた尋常性乾癬の1例. 第32回日本乾癬学会学術大会 2017. 9. 8 東京
12. 中原剛士 福家辰樹 川田康介 室田浩之 荒川浩一 片山一郎. 小児アトピー性皮膚炎の治療ゴールに関する医師への意識調査 第116回 日本皮膚科学会総会
13. 中原剛士 古江増隆 IgE報告50周年記念シンポジウム IgEとアトピー性皮膚炎 第80回日本皮膚科学会東京支部総会 2017年2月12日
14. 中原剛士 ランチョンセミナー 乾癬の病態から考えた生物学的製剤の選択 ーみなさん、どうやって選んでいますか？ー第80回日本皮膚科学会東京支部学術大会 ランチョンセミナー 9 2017年2月12日
15. 中原剛士 セミナー 皮膚科領域における抗ヒスタミン薬の臨床的評価とその効果的な使い方. 日本皮膚科学会第220回熊本地方会 2017年3月4日
16. 中原剛士 古江増隆 特別講演 アトピー性皮膚炎の本質に迫る 第20回記念日本獣医皮膚科学会学術大会・総会 2017年3月12日
17. 中原剛士 スイーツセミナー 乾癬の病態理解からみえてくる 生物学的製剤の特性とその選択 第331回日本皮膚科学会長崎地方会 2017年4月9日
18. 中原剛士 ランチョンセミナー10 アトピー性皮膚炎の外用療法 ～アトピー性皮膚炎診療ガイドラインより～ 第33回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会 2017年4月23日
19. 中原剛士 教育講演 56 高齢者の皮膚疾患 2017 高齢者にみられる皮膚癢痒症をどう診るか？ ー病態とその対策ー 第116回日本皮膚科学会総会 2017年6月4日
20. 中原剛士 ランションセミナー サイトカインから考える乾癬の病態と生物学的製剤の選択 第69回日本皮膚科学会西部支部学術大会 2017年10月29日
21. 中原剛士 ランションセミナー 皮膚疾患に対する抗ヒスタミン薬の効果的な使い方 第47回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会学術大会 2017年12月9日
22. 中原剛士 アトピー性皮膚炎のスキンケア 第4回総合アレルギー講習会 2017年12月17日
23. 中原真希子. モーニングセミナー: かゆみのメカニズム(概説)と慢性肝疾患のかゆみの現状ー慢性肝疾患患者216名に対するアンケート調査を含めてー. 第80回 日本皮膚科学会東京支部学術大会. 2017/2/11-12. 東京
24. 中原真希子 シンポジウム8 アレルギー疾患と動物モデル up-date-新たな動物モデルが開くアレルギー疾患の本質- マウスアトピー性皮膚炎モデルの有用性について 第66回日本アレルギー学会学術大会 2017/6/16-18 東京
25. 中原真希子 メンターメンティー 日本皮膚科学会西部支部総会 2017/28・29 鹿児島
26. 中原真希子 イブニングセミナー かゆみのメカニズムとかゆみ研究の最近の進歩 アレルギー接触皮膚炎学会総会 2017/12/8-10 鹿児島

27. 辻学、武信肇、一木稔生、高原正和、松田哲男、古江増隆 第 82 回九州真菌懇話会「播種性ムーコル症の 1 例」5 月 13 日マリトピア 佐賀
28. 辻学 日本臨床皮膚科医会九州ブロック総会学術教育講習会「顔面の表在性皮膚真菌感染症」2017 年 5 月 28 日 ハイアットリージェンシー 福岡市
29. 山村和彦,宇留野武人,白石暁, 田中芳彦,牛島美穂,中原剛士,渡邊真裕紀, 中原真希子,柘植郁哉,古江増隆,福井宜則. DOCK8 欠損による皮膚炎・かゆみの分子基盤:転写因子 EPAS1 を介した IL-31 産生の重要性. 第 27 回国際痒みシンポジウム 2017/11/11.東京
30. Kazuhiko Yamamura,Akira Shiraishi,Yoshihiko Tanaka,Miho Ushijima, Mayuki Watanabe,Masutaka Furue,Yoshinori Fukui. The transcription factor EPAS1 links DOCK8 deficiency to atopic skin inflammation via IL-31 induction. 第 46 回日本免疫学会学術集会 2017/12/12-14.仙台
31. 杉山晃子, 岸川禮子, 岡部貴裕, 千貫祐子, 森田栄伸, 下田照文, 西江温子, 岩永知秋, 古江増隆. HWP-WDEIA 患者の治療と効果判定—小麦運動負荷検査の意義—. 第 66 回日本アレルギー学会学術大会. 2017/06/16-18 東京
32. 杉山晃子, 岸川禮子, 河野徳子, 岡部公樹, 松本吉洋, 本莊哲, 岩永知秋, 古江増隆. 局所麻酔薬アレルギー検査の検討. 第 47 回日本アレルギー・接触皮膚炎学会学術大会. 2017/12/08-10 鹿児島
33. 三田村康貴, 布村聡, 小川雅弘, 南里康弘, 太田昭一郎, 吉原智仁, 古江増隆, 出原賢治. ヒト線維芽細胞における SOX11 を介した IL-13 依存性のペリオスチン発現の誘導. 第 66 回日本アレルギー学会総会 2017/6/16-18,東京都
34. 安河内由美、中原真希子、中原剛士、黒木りえ、古賀哲也、増野年彦、栗原雄一、古江増隆. 日本時アトピー性皮膚炎(AE)患者における POEM(Patient-Oriented Eczema Measure)層別化 第 116 回日本皮膚科学会総会、2017/6/3 仙台市
35. 宮崎玲子,中原真希子,井上寛子, 河原紗穂, 古江増隆.Elephantiasis Nostras Verrucosa の一例 第 383 回皮膚科学会福岡地方会 2017/11/23,福岡
36. 和田 尚子, 内 博史, 古江 増隆. Eribulin が奏功した頭部血管肉腫の 1 例. 第 116 回日本皮膚科学会総会. 2017/6/2-54 仙台.
37. 和田 尚子, 内 博史, 古江 増隆. 新規治療薬により長期生存が認められた悪性黒色腫脳転移の 2 例. 第 33 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 2017/6/30-7/1, 秋田.
38. 和田 尚子, 内 博史, 古江 増隆. Nivolumab による RS3PE (remitting symmetrical seronegative synovitis) syndrome の 1 例. 第 68 回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 2017/10/7-8. 京都.
39. 和田 尚子, 内 博史, 古江 増隆. 当科において判断に迷った症例. 第 69 回日本皮膚科学会西部支部学術大会. 2017/10/28-29. 熊本.
40. 村田真帆,,千葉貴人,陣内駿一,末永亜紗子,幸田太. 意外と多い?小児のインスタントヌードル関連熱傷. 第 116 回日本皮膚科学会総会, 2017/06/02-04, 仙台市

41. 村井美華,三苦千景,古江増隆. 全身性強皮症の検討-抗 RNA ポリメラーゼⅢ抗体陽性例の検証- 第 116 回 日本皮膚科学会総会 2017/06/03-05,仙台
42. Mika Murai, Gaku Tsuji, Chikage Mitoma, Akiko Hashimoto-Hachiya, Makiko Kido-Nakahara, Takeshi Nakahara, Hiroshi Uchi and Masutaka Furue. an endogenous tryptophan photo-product, FICZ, is an integral part of photo-aging by reducing TGF- β -induced collagen maintenance. 九州大学教育改革シンポジウム 2017 2017/07/10,福岡
43. 大野文嵩 慢性皮膚炎モデルマウスにおける悪性黒色腫の腫瘍発育への影響. 第 27 回日本樹状細胞研究会 2017/6/29 東京都
44. 大野文嵩 Integration of periostin and M2 macrophages in human and murine melanoma progression. 第 42 回研究皮膚科学会 2017/12/15 高知
45. 武信肇,中原真希子,中原剛士,内博史,古江増隆. 有棘細胞癌、Bowen 病が多発した表在播種型汗孔角化症の 1 例. 第 381 回福岡地方会 2017/7/2,久留米市
46. 武信肇,三苦千景,一木稔生,内博史,古江増隆. 自己免疫性甲状腺疾患に合併したリポイド類壊死症の一例. 第 81 回日本皮膚科学会東部支部学術大会 2017/9/23-24,郡山市
47. 武信肇,辻学,吉田舞子,中原真希子,高原正和,松田哲男,古江増隆. 黒色分芽菌症の 2 例.第 61 回日本医真菌学会総会・学術集会 2017/9/30-10/1,金沢市
48. 武信肇,辻学,一木稔生,高原正和,松田哲男,古江増隆. 播種性ムーコル症の 1 例.第 69 回日本皮膚科学会西部支部学術大会 2017/10/28-29,熊本市
49. 武信肇,中原真希子,中原剛士古江増隆. 造血幹細胞移植後にアトピー性皮膚炎を生じた 3 例.第 47 回皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 2017/12/8-10,鹿児島市
50. 稲富裕佑, 久永佳奈, 福嶋晴太, 嶋本涼, 上菌健一, 花田麻須大, 吉田聖, 門田英樹. リンパ管細静脈吻合術における術後経過の検討.第 104 回九州沖縄形成外科学会学術集会 2017/7/15,福岡市
51. 陣内駿一, 高橋聡, 鹿毛勇太, 並川健二郎, 堤田新, 山崎直也. 陰部悪性黒色腫に対して nivolumab を投与し原発巣の regression が認められた 1 例. 第 69 回日本皮膚科学会西部支部学術大会 2017/10/29, 熊本県
52. 陣内駿一, 並川健二郎, 鹿毛勇太, 中野英司, 武藤雄介, 高橋聡, 堤田新, 山崎直也. 肘にセンチネルリンパ節が同定された悪性黒色腫の検討. 第 19 回 SNNS 研究会学術集会 2017/11/10, 東京都
53. 陣内駿一, 高橋聡, 鹿毛勇太, 中野英司, 武藤雄介, 並川健二郎, 堤田新, 山崎直也. 左踵部原発メラノーマの局所再発、in-transit 転移に対して nivolumab・放射線療法が奏功した 1 例. 第 81 回日本皮膚科学会東京支部学術大会 2017/11/19, 東京都
54. 木村七絵,竹下弘道,菊池智子,甲斐達也,井上靖. Schnitzler 症候群の一例. 第 383 回日本皮膚科学会福岡地方会 2017/11/23,福岡市

55. 膳所菜保子、坂本佳子、和田尚子、北川徳子、前原恵理子、和田麻衣子、辻 学、三苦千景、内博史、古江増隆. 右鼠経異所性子宮内膜症の3例. 第382回皮膚科学会福岡地方会 2017/8,福岡
56. 江藤綾桂, 中尾匡孝, 下釜達朗, 金城満, 古江増隆. Trichoepithelioma と Basal cell carcinoma の免疫組織化学的検討. 第116回皮膚科学会総会 2017/6/2-6/4,仙台市
57. 江藤綾桂, 中尾匡孝. アプレミラスト内服が奏功した掌蹠膿疱症の3例. 第383回福岡地方会 11/23, 福岡市
58. 森岡友佳, 前川朋子, 執行あかり, 田宮貞史, 桐生美麿. Sclerotic Fibroma を伴った Cowden 病の1例. 第116回日本皮膚科学会総会 2017/6/2-4,仙台市
59. 森岡友佳, 和田尚子, 辻 学, 和田麻衣子, 吉田舞子, 内 博史, 古江増隆. メソトレキセートが奏功した水疱性類天疱瘡の2例 . 第39回水疱症研究会 2017/7/15-16,札幌市
60. 森岡友佳, 前川朋子, 執行あかり, 桐生美麿. Angiolymphoid hyperplasia with eosinophilia の1例. 日本皮膚科学会第382回福岡地方会 2017/9/10 ,北九州市
61. 康渚、池田真希、竹内聡. 交通外傷を契機に生じた Mobile encapsulated fat necrosis の一例. 第69階日本皮膚科学会西部支部学術大会. 2017年10月28日(土)熊本市国際交流会館 5F大広間A・B(熊本市)
62. 佐藤清象, 千葉貴人, 桐生美麿. 手掌と足底の慢性湿疹に生じた反応性エクリン汗管線維腺腫の1例 第383回福岡地方会 2017/11/23, 福岡
63. 佐竹真緒, 前原恵里子, 和田麻衣子, 北川徳子, 膳所菜保子, 和田尚子, 辻学, 内博史, 古江増隆. サラセミアによる難治性下腿潰瘍の一例. 第383回皮膚科学会福岡地方会 2017/11/23,福岡